

1年	通年	工業数理基礎①	履修形態	全員履修（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	工業308 工業数理基礎（実教）
・関数電卓の基本操作を習得する。 ・工業の各分野で共通する基本的な数理処理に関する知識を習得し、実際に活用できる能力と態度を身に付ける。			副教材等	なし（自作プリント）
			履修条件	なし
学習内容				
中学校で学習した数学や理科の内容との関連にも配慮し基本的な数学力を補いながら、これから工業高校で学ぶ様々な基本的な数理処理を学習する。				
評価方法			定期考査と出席状況、提出物（ノート、プリント）、授業への取組姿勢等を総合して判断し評価します。	
学習上の留意点			必ず、教科書・ノート・関数電卓を用意し、ノートを必ず取るようにしましょう。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）					
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標		
前期	6	数値処理	・関数電卓の基本操作ができるようになる。 ・計算技術検定4級の合格を目指す。 ・関数電卓の応用操作ができるようになる。 ・計算技術検定3級に取り組む		
	7				
	8				
	9				
後期	10	第1章 基礎的な数理 ① 面積・体積	・基礎的な図形の面積を求めることができる。 ・敷地や建造物の面積を求めることができる。 ・基礎的な立体の体積を求めることができる。 ・構造物や部品の体積を求めることができる。		
	11	② 身近な工業事象 ・走行時間・走行距離	・自動車の速さ、走行時間、走行距離を求めることができる。 ・速さが異なる2台の自動車の走行時間と走行距離を表にまとめ、グラフ化することができる。		
	12		・電圧・電流・抵抗の関係を理解しオームの法則を利用して電気回路の計算ができる。 ・抵抗の直並列接続における合成抵抗を求めることができる。		
	1	・電流と電圧			
	2				
	3				
	学習評価の観点別規準と評価方法				
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価基準	工業の各分野における工業事象の数理処理について関心をもち、基礎的な数式の活用や情報処理機器を意欲的に活用し、合理的に数理処理を行う実践的な態度を評価する。		工業の各分野における工業事象の諸問題の解決を目指し、適切な数理処理を通して、自ら思考を深め判断し、その結果を積極的に相手に表現できる能力を評価する。	工業の各分野における工業事象を迅速かつ合理的に数理処理する実践的な数理処理能力を身に付け、その成果を的確に活用する技能を評価する。	工業の各分野における工業事象の合理的な数理処理の知識や、実際に活用して工業技術の諸課題を主体的に解決し、工業の意義や役割について理解しているかを評価する。
評価方法	授業に取り組む意欲・関心・態度を総合的に評価する。		ノートやプリントなどの提出状況及び内容を総合的に評価する。	授業中の課題状況及び小テストの状況を総合的に評価する。	定期考査
学習サポート					
各専門分野の学習を進めるための大切な科目です。教室での学習です。定期考査も行います。 前半は、関数電卓の使用法を理解する目的で、計算技術検定に向けた学習を行います。 指導に従い、基礎基本を理解し、期限内に必ずノート・課題の提出が必要です。					

1 A	通年	美術Ⅰ	履修形態	選択（3・4修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	美Ⅰ305 高校生の美術1（日文）
美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高める。			副教材等	
			履修条件	
学習内容				
レタリング 立体図（2点透視図法） 色彩デザイン ・グラデーション ・3つのトーンで色塗り			石彫 マジックペンを用いたイラスト 絵文字 色面による構想画	
評価方法			作品を仕上げて提出。	
学習上の留意点			描き込む中に、面白さが出てきます。	
授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前期	6	絵文字	・伝達のデザインではより魅力を高めたり、楽しめたりする演出をする。	
	7	レタリング	・アルファベットで自分の名前をレタリングする。	
	8			
	9	グラデーションでイラスト	・3次元に表す絵画の基礎が明暗の変化を掴む。	
後期	10	立体図（2点透視図法）	・2点透視図法を用いて、空間を立体的に表現できるようになる。	
	11	色面で構想画を描く	・イラストで様々な自己表現ができるようになる。	
	12	マジックペンを用いたイラスト	＜色面、点描、線描＞	
	1	石彫	・造形的な基礎形態を身につける。	
	2		・立体的なものの見方や形の表現の表し方を知る。	
	3	絵文字	・表現を膨らませて、イメージしたものを文字で伝達する。	
学習評価の観点別規準と評価方法				
評価の観点	知識及び創造的な技能		発想や構想の能力	美術への主体的に学習に取り組む態度
評価基準	創造的な美術の表現をするために必要な知識・技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。		感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
評価方法	デッサン 色彩構成 成形		実技作品	出席状況 平常の授業活動 学習態度 自己評価・反省
学習サポート				
美術の基礎であるデッサン力をつける心構えと色彩体系を理解しつつ色を使って授業実技を行っていきます。 製作していく中で疑問点や発見をし、日頃から作品や人工物、自然の観察して造形力や美的感性を磨いていきます。				

1 A	通 年	書道Ⅰ	履修形態	選択（3・4修制）	
			履修単位	2単位	
		科目目標		教科書	書Ⅰ305 書道Ⅰ（東書）
		書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。		副教材等	特になし
履修条件					
学習内容					
・漢字仮名交じりの書 ・漢字の書 ・仮名の書					
評価方法			① 参加状況や態度 ② ファイルの管理 ③ 提出作品により評価		
学習上の留意点			なし		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（单元名）	学習のねらい・目標	
前 期	6	1. 漢字仮名交じりの書。	・各書体の基本表現を古典作品に求め、実習を通して用筆法や運筆法を身につける。	
	7		楷書体	行書体
	8	・各書体の基本表現を古典作品に求め、実習を通して用筆法や運筆法を身につける。	 	
	9			
後 期	10	3. 仮名の書 平仮名、変体仮名を扱う。	仮名	変体仮名
	11		 	
	12			
	1			
	2			
	3			

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価基準	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技術・技能を身に付け表している。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	学習状況の観察 提出作品の内容	学習状況の観察 提出作品の内容	学習状況の観察 作品の提出状況 制作への取組状況

学習サポート	
小学校・中学校からの国語科書道の能力をさらに高め、芸術科書道を通して様々な美を探究し、感性を養います。期限内に必ず学習記録・課題作品の提出が必要です。及び、年4回の確認小テストを実施しています。	

1 年	通 年	現代社会	履修形態	全員履修（3修制）
			履修単位	2単位
科目目標			教科書	現社315 最新現代社会 新訂版（実教）
広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察し、理解を深めるとともに、人間としての在り方生き方について自覚を育て、民主的・平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			副教材等	なし
			履修条件	特になし
学習内容				
現代国家と民主政治、日本国憲法の基本的性格、日本の政治機構と政治参加 現代の経済社会、日本経済の特質と国民生活 国際政治の変化、国際経済の動向と国際協力 など				
評価方法			プリント・ノート・授業への取組などの平常評価と定期考查を総合して評価する。	
学習上の留意点			毎日の持ち物・取組・提出物を評価します。忘れ物に注意して、授業に休まないように気をつけましょう。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前 期	6	青年期の発達課題 民主政治の原理 日本国憲法の基本的性格 国会・内閣・裁判所 政党制度と選挙制度	◎青年期における心身の変化について理解する。 ◎現代国家における民主政治の特徴について理解する。 ◎日本国憲法の特徴と制定された経緯を理解し、憲法の意義について考える。 ◎国民主権を実現する政治制度としての代表民主制と権力分立制の原理を理解する。	
	7			
	8			
	9			
後 期	10	金融の役割／日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本経済のあゆみ	◎現代の市場における価格の役割、寡占の影響について理解する。 ◎景気変動において、政府、財政の役割について理解する。	
	11			
	12			
	1	第二次世界大戦後の国際政治 国際機関のしくみ 国際連合／国際機関 国際協力 人類の課題	◎戦後日本経済のあゆみと特質を理解する。 ◎第二次世界大戦後の国際政治が、冷戦構造のうえにあったこと、冷戦構造終結の理由やそのプロセスをおさえる。 ◎国際協力について歴史的経緯をふまえて理解する。	
	2			
	3			

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	現代社会の問題と人間の生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用して学び方を身に付けている。	社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、自分の意見を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、より良い社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 授業ノート・プリントの記述 定期考查の結果	学習状況の観察 授業ノート・プリントの記述 定期考查の結果	学習状況の観察 授業ノート・プリントの記述

学習サポート
1年を通じて日本の政治、日本の経済について学習します。選挙権を獲得するにあたり、日本の政治の仕組みと、有権者としての必要な知識を身に付けるために、政治分野は特に重点的に学習します。授業には教科書とノートを必ず持参し、この2点を出席点に含めます。また、考查時にノートの提出を求め、平常点に加算します。

1年	通年	コミュニケーション英語Ⅰ		履修形態	全員履修（3修制）
				履修単位	2単位
科目目標				教科書	コⅠ335 VISTA English CommunicationⅠ（三省堂）
基本的な英語を用いて書かれた文章を基に、必要な語句や文型を用いて、英文の内容を把握したり、内容を要約し伝える能力を養う。英語の音声の特徴を学んだ後、音声教材を使用することにより、英語の音に慣れることを目標とする。				副教材等	なし
				履修条件	特になし
学習内容					
諸外国の生活様式 日本文化の海外普及 人類の文化遺産を伝える 自然環境に直面する問題 初対面でのコミュニケーション ボランティア活動 戦争の影響 人気キャラクターの社会的役割 障害を乗り越えての偉業達成 自然をヒントにした暮らしの改善 言葉の持つ力 上記の項目について英語で自分の状況や意志を伝える練習をする。					
評価方法			平常の授業への参加、ノートの提出状況、定期考査を基に総合的に評価する。		
学習上の留意点			英語は基になる音声をよく聞いて、その通り発声することによって身に付きます。音読、発表など、声を出す活動には積極的に参加しましょう。		
授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）					
期	月	学習内容（単元名）		学習のねらい・目標	
前期	6	・Keirama Blue （be動詞、一般動詞）		・海とサンゴ礁の役割について考える。	
	7	・Cool Japan （疑問文、現在進行形）		・海外から見た日本の魅力を知る。	
	8	・Mexican Dishes （助動詞、過去形）		・料理を通じて文化の違いを知る。	
	9	・The Olympics （SV0, SV00, SV0C文型）		・オリンピックの意義や過去の面白い競技を通じて、スポーツが国際交流に果たす役割を知る。	
後期	10	・Baobabs in Madagascar （不定詞）		・植物が直面している問題を知り、その保護について考える。	
	11	・Toothbrushing in Edo （動名詞）		・江戸時代の生活習慣を知ることを通じ、日本文化を英語で紹介するための基礎とする。	
	12	・Machu Pichu（現在完了）		・世界遺産「マチュ・ピチュ」の魅力と不思議に触れ、文化財保護の受容性を考える。	
	1	・Motala and Landmines （受け身）		・人間の活動が動物に与える影響を考える。	
	2	・Dick Bruna（関係代名詞）		・人気キャラクターのデザイナーの社会的役割を考える。	
	3	（形式主語it, It is for… toIt is,,,that A do）		・視覚障害のあるピアニストとのインタビューを通じて困難を克服するには何が 必要かを考える。	
学習評価の観点別規準と評価方法					
評価の観点		知識及び技能		思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価基準		グローバル(glocal)視野を踏まえて、言語の背景にある文化などを理解しているとともに、英語でListening・Speaking・Reading・Writingについて、実際のコミュニケーションにおいて、活用できる知識・技能を身につけている。		英語でListening・Speaking・Reading・Writingについて、情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現している。	英語を用いて、コミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
評価方法		授業中の言語活動・発表 課題提出 定期考査		授業中の言語活動・発表 課題提出 定期考査	授業中の言語活動・発表 課題提出 定期考査
学習サポート					
英語の4技能(Listening, Reading, Speaking, Writing)を養います。それらを測る方法として、各定期考査、授業中の言語活動・発表、ノート・課題の提出を実施している。					

1 年	通 年	家庭基礎	履修形態	全員履修（3修制）
			履修単位	2単位
			教科書	家基317 家庭基礎（開隆堂）
			副教材等	なし
衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			履修条件	必修科目
学習内容				
家庭生活の向上を図る能力と実践的な態度を育て、実際の生活の場で実践できるようになるために「人の一生と家族・福祉」、「家族の生活と健康」「消費生活と環境」を中心に学習を進めていく。				
評価方法			定期考査、提出物、授業中の態度。	
学習上の留意点			毎時間の授業を大切に学習すること。	
授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前期	6	生活をつくる	・人生について考え、自分の未来をより良いものとするために何が必要かを考えて行動できるように学習する。	
	7	消費者市民として生きる	・民法などの改正に伴っておこる、社会の変化と自分たちの消費生活や経済生活の変化及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。	
	8	・生涯の経済計画とリスク管理 ・消費行動と意思決定		
	9	育つ・育てる	・子供の健全な発達を支えるために親の役割と保育を重点に学習する。	
後期	10	食べる	・家族の栄養と食事、食品と調理、食生活の安全と衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。	
	11	・食べ物と栄養素を知る		
	12	・何をどれだけ食べればいいのか ・調理実習・調理法の基礎		
	1	着る	・被服の機能と着装、被服材料の特徴と被服管理などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 ・基本縫いをを用いた作品づくり。	
	2	・衣服を着る意味を知る		
	3	・衣服を選ぶ ・気にいった服を長持ちさせる		
学習評価の観点別規準と評価方法				
評価の観点	知識及び技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付け「ホームプロジェクト」を理解しているか。		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、「学校家庭クラブ活動」の充実を図り、実践的な態度を身に付けているか。
評価方法	学習状況の観察 ワークノートの記述 定期考査の結果 製作品		学習状況の観察 ワークノートの記述 定期考査の結果 製作品の自己評価表	学習状況の観察 ワークノートの記述 製作品
学習サポート				
授業中のスマホ使用しないこと。 刺し子、ふきんなどの作品を完成させること。 板書を丁寧に書く。（提出・点検し点数化します） テストを休まないこと。 裁縫用具を丁寧に扱うこと。				

1 年	通 年	工業数理基礎②	履修形態	3 修制
			履修単位	2 単位
科目目標			教科書	工業308 工業数理基礎（実教）
具体的な工業的事象について、実際に計算を行い、図を描き、グラフを書く等の作業をしながら、数理処理に関する知識と技術を学習する。			副教材等	なし（自作プリント）
			履修条件	特になし
学習内容				
具体的な工業的事象について、実際に計算を行い、図を描き、グラフを書く等の作業をしながら、数理処理に関する知識と技術を学習する。				
評価方法			定期考査と出席状況、提出物（ノート、プリント）、授業への取組姿勢等を総合して判断し評価します。	
学習上の留意点			教科書、ノート、関数電卓を用意し、積極的に問題に取り組みましょう。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）			
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標
前期	6	第2章 単位と数値処理	・国際単位系の量記号、単位記号の関係を理解する。 ・基本単位と組立単位について理解する。 ・接頭語を理解する。 ・指数の性質と計算法を習得する。 ・速さ・加速度・密度など様々な事象を、S I 接頭語を用いて単位換算ができる。
	7	① 国際単位系（SI）	
	8	② 組立単位の換算	
	9		
後期	10	第3章 乗り物の数理	・動いている乗り物等の速さや速度の表し方を学ぶ。 ・ベクトルの合成や分解について理解する。 ・等加速度運動をする物体について、その速さや走行距離を求めることができる。 ・ラジアンについて理解し、円周上を運動する物体の状態を表すことができる。 ・力とベクトルについて理解する。 ・トルクについて理解し、その大きさや向きを計算によって求めることができる。
	11	① 速さと速度	
	12	② 電車の走行と円運動	
	1	③ 自転車の走行	
	2		
	3	④ 動力の伝達	

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	工業の各分野における工業事象を迅速かつ合理的に数理処理する実的な数理処理能力を身に付け、その成果を的確に活用する知識・技能を評価する。	工業の各分野における工業事象の諸問題の解決を目指し、適切な数理処理を通して、自ら思考を深め判断し、その結果を積極的に相手に表現できる能力を評価する。	工業の各分野における工業事象の数理処理について関心をもち、基礎的な数式の活用や情報処理機器を意欲的に活用し、合理的に数理処理を行う実践的な態度を評価する。
評価方法	授業中の課題状況及び小テストの状況を総合的に評価する。	ノートやプリントなどの提出状況及び内容を総合的に評価する。	授業に取り組む意欲・関心・態度を総合的に評価する。

学習サポート
各専門分野の学習を進めるための大切な科目です。教室での学習です。定期考査も行います。指導に従い、基礎基本を理解し、期限内に必ずノート・課題の提出が必要です。

1 年	通 年	工業技術基礎②	履修形態	全員履修（3修制）
			履修単位	2単位
			教科書	工業301 工業技術基礎（実教）
			副教材等	なし（自作プリント）
			履修条件	なし
科目目標				
工業に関する基礎知識を学び、実験実習に活用する能力を養う。				
学習内容				
この科目は、工業の各専門分野の学習を進める前に基礎的な知識を座学で学習します。技術への興味・関心を高め、実験・実習に活用できる、各専門分野の幅広い知識を身につけ、工業に関する広い視野を養う				
評価方法		定期考査、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断し評価する。		
学習上の留意点		配布プリントの問題が独力で解けるように、先生の話をよく聞くこと。		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前期	6	(1) 「工業技術基礎」を学ぶにあたって	(1) 「工業技術基礎」で何を学ぶのかを理解する。	
	7	(2) 人と技術と環境	(2) 工業に携わる人や社会、工業技術の担う役割を理解する。	
	8	(3) 知的財産とアイデアの発想	(3) 知的財産について学び、知的財産権について理解する。	
	9	(4) 事故防止と安全作業の心がまえ	(4) 事故防止と安全作業についての知識と重要性を理解する。	
	9	(5) 実験・実習報告書の作成	(5) 実験・実習の結果を報告書としてまとめる手法を習得する。	
後期		(6) 寸法のはかりかた	(6) ノギス・ハイトゲージ・マイクロメータの基本的な原理と使い方を理解する。	
		(7) 工具の扱いかた	(7) 用途に応じた工具の選択と、正しい使用方法を理解する。	
		(8) 材料について学ぼう	(8) 工業製品に使われている各種材料について、その特質を理解する。	
	10	(9) 手仕上げの方法	(9) ものづくりにとって大切な手仕上げの基礎を理解する。	
	11	(10) 旋盤の扱いかた	(10) 旋盤の基本知識・技術・操作方法を理解する。	
	12	(11) フライス盤の扱いかた	(11) フライス盤の基本知識・技術・操作方法を理解する。	
	12	(12) 溶接の方法	(12) アーク溶接とガス溶接の基本知識・技術・操作方法を理解する。	
	1	(13) 直流・交流回路の実験	(13) 直流・交流回路の基礎知識について理解する。	
	2	(14) 回路計・オシロスコープの取り扱いかた	(14) 回路計・オシロスコープの基本的な取り扱い方を理解する。	
	3	(15) プリント配線について学ぼう	(15) プリント配線に必要な基礎知識を理解する。	
	2	(16) 化学実験の基本操作について学ぼう	(16) 物質を取り扱ううえでの基本的な知識を理解する。	
	3	(17) 図面の表しかた	(17) 線の用途や種類、第三角法等の基本的な図面の書き方を修得する。	
	3			

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	工業の各分野に関する基礎的な技術を身につけ、安全や環境にも配慮し、ものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する知識技能技能を評価する。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を評価する。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展をはかる創造的、実践的な態度を評価する。
評価方法	プリントの取組状況及び独創性。	レポート・課題等の内容。作品の創意工夫。	課題の取組状況と内容。発展学習への取組状況。
学習サポート			
工業を学ぶための基礎科目です。教室で学習を行います。定期考査も行います。指導に従い、ものづくりに求められる基礎基本を理解し、期限内に必ずノート・課題の提出が必要です。			